

繊細さを滲ませた

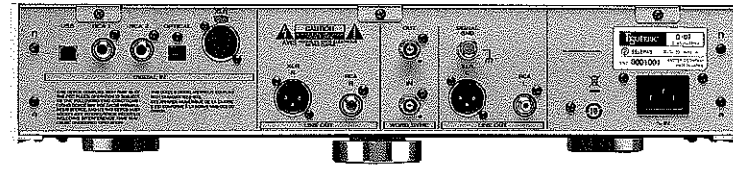
クオリティの高いワイドレンジサウンド 旭化成32ビットDACを搭載したエソテリック初の USB入力対応D/Aコンバーター 三浦孝仁

エソテリックから新発売となったD07は、最新の32ビットDAC素子を搭載した単体D/Aコンバーターである。上級機(D05)のちょうど半分の価格を実現しながらも音のスペックは概ね遜色なく、しかも最高24ビット/96kHzサンプリングの高品質USB入力の標準装備により、デジタルファイル・ミュージックにも直接対応した注目機だ。

注目の32ビットDACは旭化成エレクトロニクス社のAK4392。上級機と同じように、このデュアルDACをチャンネルあたり1基採用する贅沢な使いかたである。標準・LINKのデジタル入力は省略されたが、本機はエソテリック独自のES-LINKを継承しており、同社D05などの単体トランスポートとデジタル接続XLR端子することでSACDを聴くことができる。また、ワードクロック出力端子を装備しているの単体クロックジェネレーターがない場合

も同社製トランスポートなどとクロック同期再生が可能だ。

気になるUSB入力の音は、繊細さを滲ませたクオリティの高いワイドレンジさが印象的。ウィンドウズXP搭載PCとフルテック製のUSBケーブルで接続してみたが、適度に厚く暖かみのある音調を基調に繊細感もじゅうぶんで、聴き疲れの少ない本格派な



左側にUSB 1系統、同軸(RCA)2系統、光(TOS)1系統、バランス(XLR)1系統のデジタル入力端子を配置。ワード入出力端子を挟んで、アンバランス/バランス各1系統のライン出力端子を左右に分けて配す。



D/Aコンバーター
エソテリック
D07
¥300,000

●デジタル入力:同軸2系統(RCA)、バランス1系統(XLR)、光1系統(TOS)、USB 1系統(Bコネクター) ●アナログ出力:アンバランス1系統(RCA)、バランス1系統(XLR) ●ワードクロック入力:同軸1系統(BNC) ●ワードクロック出力:同軸1系統(BNC) ●寸法/重量:W442×H103.5×D346mm/9.5kg ●備考:バランス出力HOT=2番ピン ●問合せ先:エソテリック(AV)お客様相談室 ☎0570-000-701

D05が上回っているが、本機のコストパフォーマンスは抜群である。32ビット・8倍オーバーサンプリングのデジタルフィルターは、一般的なFIRとプリエコーが極小なショートディレイ型を選択できる。アナログ的な質感を求めらばショートディレイを選ぶといい。

安定感があり、エネルギーが充実。

じっくり聴き込ませる魅力機

ヘーゲル初のUSB入力対応単体D/Aコンバーター。 最大24ビット/192kHzのデジタル信号に対応 黛健司



D/Aコンバーター
ヘーゲル
HD10
¥160,000

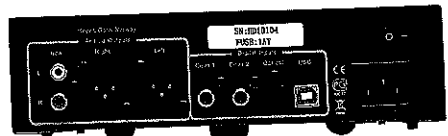
●デジタル入力:同軸2系統(RCA)、光1系統(TOS)、USB 1系統(Bコネクター) ●アナログ出力:アンバランス1系統(RCA)、バランス1系統(XLR) ●寸法/重量:W210×H60×D260mm/2.5kg ●備考:バランス出力HOT=2番ピン ●問合せ先:編エレクトリ ☎03(3530)6276

思わず身を乗り出し、いつもなら途中で音量を絞るダイアン・リヴスが歌う「フィリッパ・オブ・ジャズ」を最後まで聴き通してしまった。スピーカーと対峙して、じっくり音楽を聴き込めば、にせせる魅力的な製品だ。なにより音にコクがあり、存在感を主張するところが頼もしく、一種の風格すら感じる。大地にしっかりと足をつけたかのような安定感があり、可聴帯域内にエネルギーが充実している印象。骨格もしっかりしている。ただ、女性ヴォーカルが時として、硬質気味に感じられることがあったが、ノルウェー、ヘーゲルからリリースされた新型D/Aコンバーターは、同軸/光の他、USBの入力端子を持ち、話題のPCオーディオやインターネット経由のストリーミング再生にも対応可能な製品だ。同軸/光入力は192kHz/24ビットに、USB入力は48kHz/24ビットまで対応する。

編集部が用意してくれたノートブックPCで、持参したCDをリッピングし、リファレンスとして使用していた百万円超のSACD/CDプレーヤーからのデジタル出力と比較してみても、PCデー

々の音質的優位性は圧倒的だった。もちろん、非圧縮のWAVファイルで取り込んだ場合の話だが、分解能の向上が著しく、余韻部分の描写に大きな差が出る。ピアノの粒たちのよい響き、艶やかでユアンスに富むヴォーカルなど、美点をあげればきりが無い。

PCオーディオ自体、端緒については、PC自体や接続ケーブル、リッピングソフトの優劣など、未解決な問題を抱えているにしても、新しい楽しみが広がったことは事実だろう。難しいことを考える前に、アイチューンスをダウンロードして、手持ちのCDをどんどんリッピングしてみたらよい。筆者もじつは、メインシステムのラックの中に、どっやっやMacのスペースを確保するか、真剣に悩み始めている。



左側にアンバランス、バランス各1系統のアナログ出力端子、中央に2系統のデジタル同軸入力端子のほか、各1系統の光(TOS)端子とUSB端子を配置。入力切替はフロントパネルの大型ボタンで行なう。